

『木と人のかかわり 2 ～木器からみた原始の生業とまつり～』

2019.10.5(土)～12.1(日)

はじめに

人類が初めて手にした道具、それは木の棒、あるいは石ではなかったかと想像することができます。ここでは、器や道具、建築部材など、木を材料にしたものすべてを木器としていますが、人は木器を手にして以来、木がもつすぐれた特質を熟知し、幅広い分野で巧みに取り入れてきました。

今回は木器というファインダーを通して、弥生時代から古墳時代、いわゆる原始の時代の暮らしぶりや精神文化、いかにして自然と関わっていたのかなどを覗いてみたいと思います。

歴史の謎を解き明かす木器

守山市には、弥生時代から古墳時代にかけての服部遺跡や下之郷、伊勢遺跡、下長遺跡などの遺跡が営まれ、野洲川の沃野で始まった稲作を契機にヤマト王権の誕生をけん引するほどに地域社会を発展させてきました。稲作社会の発展から古代国家の形成までの日本史を体現する遺跡群が所在する特筆すべき地域とされています。

さらにもうひとつ、守山の遺跡の特質を挙げるとすれば、歴史の謎を解き明かしうる木器が数多く出土していることです。



下之郷遺跡の環濠木器出土写真

木器と人のかかわり

木器は多くの場合、再利用された後に燃料となる運命にあります。そのことに加え、有機質であるため、長い年月のうちに腐朽し、土器や石器に比べて残りにくい特性があります。しかし、野洲川が形成した沖積地に埋まった木器は、適度の水分量と空気が遮断されるという、またとない土壤環境に恵まれたことで鮮明に現代によみがえりました。

発掘調査で見つかった木器は多種多様です。明確に峻別できるものばかりではありませんでしたが、ここでは、生業の木器とまつりの木器に大別しました。

木器、今日までのつながり

木製品の製作技法を見ると、表のように^{くりもの}割物・^{さしもの}指物・^{まげもの}曲物・^{ひきもの}挽物・^{たがもの}箍物・^{ほりもの}彫物・^{あみもの}編物に分類することができます。

弥生時代中期の下之郷遺跡から見つかる木器は、^{かご}籠などの編物を除くと、木を削り込んでつくる割物が多くを占めます。石斧の柄が出土していて、木材の伐採、製材、木器づくりに^{ふとがたはまくりはせき}太型蛤刃石斧などの石製工具が大きな役割を果たしていたことがわかります。

種類	技法（つくり方）	木工品
割物	木を削り込んでつくる	木臼・杓子
指物	木や棒材を指し合わせてつくる	箱・障子・箆筒
曲物	板材を曲げてつくる	蒸籠・ワッパ
挽物	ろくろで挽いてつくる	椀・皿・盆
箍物	箍をはめてつくる	桶・樽
彫物	板材を彫り込んでつくる	欄間
編物	薄くした板材などを編みあげてつくる	籠・笊

木製品製作技法の分類

斧の柄は古墳時代前期の下長遺跡でも見つかっています。しかし、その形状からは石斧に代わって鉄斧が使われていたことがわかります。「石」から「鉄」にかわった鉄斧などの工具と、新来の木工技術である規矩術は、木器づくりに変革をもたらしました。割物や編物に加え、新たに指物や曲物がつくられるようになります。精巧で^{せいこう}優美な^{ゆうび}威儀具や木製容器から大型建物の建築部材や建物装飾に至るまで、木の活用は飛躍的に広まりました。古墳時代に伝わった^{きく}規矩による^{しゆく}仕口、^{つぎて}継手などの木造建築の加工技術は、現在の在来工法のもとにもなっています。

生業の木器

日常生活に用いられた木器を「生業の木器」としてはいますが、容器や農耕具、食事具、運搬具、建築部材、服飾具、紡織具など、その使われ方は昭和の時代とそん色がありません。

弥生時代中期頃は、重量のある太型蛤刃石斧で伐採した木材に楔を打ち込んで割る「ミカン割」によって、手ごろな厚さにした材木を割りこんで木器をつくっていました。

木工技術が未発達だったことと、石製工具に限定されていたため、盤や高杯といった容器や杓子、一木鋤などの割物が多くを占め、編物などが補完していたことがうかがえます。

古墳時代前期になると、鉄製工具の普及と、そのことによる規矩術などの木工技法の発達によって、指物が割物をしのぐようになります。コンパスとものさしを意味する規矩による仕口、継手などの加工技術が加わった木造建築は、木材を組み合わせることによって、飛躍的に精巧さをまし、建物建築は大規模化します。

このほかに、天板と脚、座板と脚を別材で作り、蟻溝や柄孔で組んだ机、椅子といった指物にも規矩術の技法が採り入れられています。さらには、板材を組み合わせた曲物は古代以降に全盛を迎えますが、この時代にも生活の中に取り入れられています。

また、弥生時代中期、人力でモノを運搬するための背負板が見つかっています。国内の流通はもとより、海外との交易が弥生時代にもまして活発になる古墳時代、下長遺跡では、準構造船の舳先や船底部に舷側板がついた部材が見つかっています。古墳時代の物資流通の一翼を琵琶湖の湖上交通が担っていたと考えることができます。道路交通網が整備されていなかった時代、準構造船は物資の大量輸送を可能にしました。



木製容器と杓子・高杯の製品、未製品（下之郷遺跡）



木製容器と腰掛（下長遺跡）



鋤の未製品・鋤（下長遺跡）



鋤・鋤（下長遺跡）



田下駄・下駄（下長遺跡）



棟押え（下長遺跡）



梯子（服部遺跡）



扉板（下長遺跡）

まつりの木器



儀杖（下長遺跡）

弥生時代になると、稲作文化と共にもたらされた新たな信仰は、縄文時代からの自然崇拜と重層的に絡み合い、日本独自のまつりや信仰が生まれ出されました。

まつりの道具といえば、弥生時代は銅鐸、古墳時代は銅鏡がまず連想されます。農耕社会が発展するにつれて、人々の間の格差が次第に顕在化し、古墳時代には、首長、あるいは豪族と呼ばれる支配者と一般民衆という階層が生まれます。弥生時代の銅鐸はムラ単位のまつりの道具、銅鏡は支配者である首長が司祭者として執り行ったまつりのアイテムとして理解することもできます。

しかし、象徴的なまつりの道具である銅鐸や銅鏡以外にも数々のまつりの木器が見つかっています。日常生活において、神を崇拜する様々なまつりが存在して

いたことは容易に想像することができます。農耕に関わるまつりとしては、「稲を護る穀霊信仰」や、「水神信仰、井戸や水辺のまつり」、「模擬戦による豊凶の占い」などが想定されています。

服部遺跡や下長遺跡などでは、古墳時代の琴が出土しています。現在では、楽器として音を奏でる琴も、この時代には、まつりの道具として扱われていました。

発掘調査では、「まつりの木器」として、剣形、刀形木製品や舟形木製品などが見つかっていますが、まつりが儀礼的、模擬的に執り行われていたためか、いずれも実物の模造とわかる程度までデフォルメされたり、実際に使用できないほど装飾されたりしています。

下之郷遺跡で見つかった弥生時代中期の盾や戈の柄、飾り弓も実用品というよりは、むしろ模擬戦の道具と考えることができます。また、弥生時代後期の竖櫛、弧帯文や直弧文など権威の文様が施された儀杖などの威儀具は、司祭者である首長の権威を誇示する所持品であることから、まつりの木器に包括しています。

まつりの木器、それは生業の木器に比べると、現代社会との隔たりが感じられるかもしれませんが、変容しながらも現在も脈々と伝わっているものが少なくありません。



竖櫛（服部遺跡） 木偶（下之郷遺跡）



戈の柄 鳥形木製品 弓（下之郷遺跡）



石見型盾形木製品（服部遺跡）



衣笠の立ち飾り（八ノ坪遺跡）



柄頭（下長遺跡）



盾（服部遺跡・下長遺跡）



槽づくりの琴（下長遺跡）



板づくりの琴（阿比留遺跡）



棒づくりの琴（古高・経田遺跡）

展示品一覽表

生業の木器

No.	展示品名(数量)/樹種	遺跡名	時代・時期
1	槽/スギ	八ノ坪遺跡	古墳・前期
2	槽/スギ	下長遺跡	古墳・前期
3	容器(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
4	竪杵(2)/アカガシ※/ツバキ	下之郷遺跡	弥生・中期
5	一木鋤/アカガシ	下之郷遺跡	弥生・中期
6	一木鋤/アカガシ	金森東遺跡	古墳・前期
7	鋤柄	下長遺跡	古墳・前期
8	曲柄鋤/アカガシ	下長遺跡	古墳・前期
9	広鋤(2)/アカガシ	下長遺跡	古墳・前期
10	横鋤	服部遺跡	古墳・前期
11	馬鋤/アカガシ	下長遺跡	古墳・前期
12	泥除け	下之郷遺跡	弥生・中期
13	泥除け	服部遺跡	古墳・前期
14	組合せ式石斧(台部)/アカガシ	下之郷遺跡	弥生・中期
15	石斧直柄 未製品/アカガシ	下之郷遺跡	弥生・中期
16	掛矢(2)	下長遺跡	古墳・前期
17	横槌(3)	下長遺跡	古墳・前期
18	横槌	八ノ坪遺跡	古墳・前期
19	横槌	阿比留遺跡	古墳・後期
20	鉄斧柄	服部遺跡	古墳・前期
21	鉄斧柄(3)	下長遺跡	古墳・前期
22	刳物腰掛(3)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
23	机/スギ	八ノ坪遺跡	古墳・前期
24	指物腰掛(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
25	下駄	下長遺跡	古墳・前期
26	下駄	阿比留遺跡	古墳・後期
27	下駄	赤目遺跡	古墳・後期
28	背負板/ヒノキ	下之郷遺跡	弥生・中期
29	背負板有頭棒/ミツハウツギ	下之郷遺跡	弥生・前期
30	準構造船 舳先/スギ	下長遺跡	古墳・前期
31	舷側板・船底部/スギ	下長遺跡	古墳・前期
32	櫂	下長遺跡	古墳・後期
33	田舟/スギ	下長遺跡	古墳・前期
34	田下駄(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
35	木錘(3)	下長遺跡	古墳・前期
36	編合目盛板/スギ	阿比留遺跡	古墳・後期
37	糸巻の支え(2)	下長遺跡	古墳・前期
38	糸巻の支え/スギ	阿比留遺跡	古墳・後期
39	紡織具	服部遺跡	古墳・前期
40	紡錘車/アカガシ	下長遺跡	古墳・前期
41	火鑽臼	服部遺跡	古墳・前期
42	火鑽臼(4)/スギ※	下長遺跡	古墳・前期
43	曲物底板(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
44	桶/スギ	服部遺跡	古墳時代
45	桶/スギ	下長遺跡	古墳・前期
46	蓋/スギ	服部遺跡	古墳時代
47	四脚付盤/スギ	服部遺跡	古墳時代
48	把手付容器/スギ	下長遺跡	古墳・前期
49	把手付容器	吉身西遺跡	弥生時代
50	容器/ヤマグワ	下之郷遺跡	弥生・中期
51	高坏/ケヤキ	下之郷遺跡	弥生・中期
52	杓子 未成品(4)/ヤマザクラ/ケヤキ※	下之郷遺跡	弥生・中期
53	杓子/ケヤキ※	下之郷遺跡	弥生・中期
54	杓子	服部遺跡	古墳・前期
55	匙(4)	下長遺跡	古墳・前期
56	まな板	服部遺跡	古墳・前期
57	四方転びの箱(3)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
58	梯子/スギ	服部遺跡	古墳時代
59	梯子(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
60	柱根(大型建物)(2)	伊勢遺跡	弥生・後期
61	柱根(2)	下長遺跡	古墳・前期

No.	展示品名(数量)/樹種	遺跡名	時代・時期
62	矢板/スギ	下長遺跡	古墳・前期
63	建築部材(4)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
64	棟押え/スギ	下長遺跡	古墳・前期
65	扉材(2)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
66	棟押え/スギ	下長遺跡	古墳・前期
67	楣(蹴放し)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
68	妻板/スギ	下長遺跡	古墳・前期
69	柱材/スギ	下長遺跡	古墳・前期
70	校木/スギ	下長遺跡	古墳・前期
71	板材/スギ	下長遺跡	古墳・前期
72	把手	下之郷遺跡	弥生・中期
73	把手	下長遺跡	古墳・前期
74	栓(5)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
75	井戸杵	吉身西遺跡	弥生・後期
76	編組製品(カゴ)	金森東遺跡	古墳・前期
77	編組製品(カゴ)(3)	下之郷遺跡	弥生・中期
78	編組製品(素材)(5)	下之郷遺跡	弥生・中期
79	編組製品(スタレ)(ゴザ)	下之郷遺跡	弥生・中期
80	桜表皮	下長遺跡	古墳・前期

まつりの木器

No.	展示品名(数量)/樹種	遺跡名	時代・時期
81	扇状装飾品	下之郷遺跡	弥生・中期
82	鳥形木製品/スギ	下之郷遺跡	弥生・中期
83	鳥形木製品(レプリカ)	下之郷遺跡	弥生・中期
84	木偶	下之郷遺跡	弥生・中期
85	石見型盾形木製品/スギ	服部遺跡	古墳・後期
86	陽物形木製品	阿比留遺跡	古墳・後期
87	用途不明木製品(5)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
88	儀杖/スギ	下長遺跡	古墳・前期
89	竪櫛(レプリカ)	服部遺跡	弥生・中期
90	竪櫛(想像復元品)	服部遺跡	弥生・中期
91	団扇状木製品(2)	下長遺跡	古墳・前期
92	柄頭(レプリカ)	下長遺跡	古墳・前期
93	小型儀杖	下長遺跡	古墳・前期
94	衣笠の立飾り(レプリカ)/カツラ・黒漆	下長遺跡	古墳・前期
95	舟形木製品(3)/スギ	服部遺跡	古墳・前期
96	舟形木製品(6)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
97	舟形木製品(準構造船)/スギ	下長遺跡	古墳・前期
98	横槌形木製品(2)	下長遺跡	古墳・前期
99	剣形木製品	下長遺跡	古墳・前期
100	剣形木製品	阿比留遺跡	古墳・後期
101	刀形木製品(2)	下長遺跡	古墳・前期
102	刀形木製品	服部遺跡	古墳・後期
103	刀形木製品(4)	阿比留遺跡	古墳・後期
104	盾(朱塗り)/モミ	酒寺遺跡	弥生・中期
105	盾(朱塗り)/モミ※	下長遺跡	古墳・前期
106	盾(朱塗り)	服部遺跡	弥生・後期
107	盾(5)/モミ※	下長遺跡	古墳・前期
108	戈の柄	下之郷遺跡	弥生・中期
109	矢形木製品	服部遺跡	弥生・中期
110	矢形木製品(3)	下長遺跡	古墳・前期
111	矢形木製品(2)	阿比留遺跡	古墳・後期
112	弓(黒漆)	酒寺遺跡	弥生・中期
113	弓(黒漆)	下之郷遺跡	弥生・中期
114	弓	下長遺跡	古墳・前期
115	木製矢柄	服部遺跡	古墳・後期
116	琴柱	服部遺跡	古墳・後期
117	槽づくりの琴/スギ	下長遺跡	古墳・前期
118	板づくりの琴/スギ	阿比留遺跡	古墳・後期
119	棒づくりの琴/クリ	古高・経田遺跡	古墳・前期



守山市立埋蔵文化財センター

〒524-0212 守山市服部町2250番地/TEL 077(585)4397
 開館時間 9:00~16:00/入館無料/休館日 火曜日・国民の祝日の翌日
 mail: maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp